

生長の家 神の国 祭だより

光の泉

the spring of light



公益財団法人 生長の家社会事業団
児童養護施設 生長の家神の国祭
〒186-0003
東京都国立市富士見台2-39-1
tel 042-572-8770
fax 042-573-9205
<http://www.kamino92.or.jp/>

10年ぶりの父と子の再会！

施設長 國弘昭義

「令和」という新しい御代を迎え、日本の国とともに私たち一人一人も新たな生命を得て新生したような、何となく誇らしくワクワクするような喜びが溢れました。そんな御代替わりを象徴するような「生まれ変わりの新生のドラマ」が一人の卒業生に起こりました。

「俺、どうしたらいいんだろ？」

5月末、茨城で美容師として頑張っている卒業生のT君から電話がかかってきました。電車の中で立ちくらみで倒れ、ドクターストップがかかって仕事を続けられるかどうかかわからない、というのです。

心身ともに疲れ切った声のT君。とりあえず五日間の休みをもらったというので、神の国祭の自立応援室（愛称）くに

ハウス」
で休養することを勧めました。
「なんだか
実家に帰って
きたみたい。
ホッとする
よ。アパート
で一人での
のついでやだ
もの」

中学2年で

入所してきた13歳の春から足かけ10年、T君は23歳になっていました。担当だった職員たちと昔話に花を咲かせながら、ぼつり一言。

「あれから10年か・俺、親父を憎むことでこの10年生きてきたように思うけど、最近、何故か会ってみたいなんて思うようになったんだ。連絡してみてもいいかな？」

父親のDVに苦しめられたT君の言葉だけに少し驚きながらも、「もう成人して自分で判断できると思うから、本当に会いたいって思うなら連絡して会ったらいいよ」と背中を押しました。

次の日、信頼をよせる職員に仲介をお願いして、お父さんに電話を入れる。最初に職員から事情を説明してもらい、10年ぶりに声を交わした父と息子。「ごめんね！ ごめんね！」と号泣するお父さんに、息子も声をあげて泣きました。

「憎しみは愛の裏返し」―愛されたいのに愛してもらえなかった、その愛憎を超えた父と子の和解の瞬間でした。

親と子の通い合う想い

その後、美容院の店長の特別のはからいで1ヶ月の休暇をもらったT君は、その間、合宿して運転免許を取得します。

「お父さんが運転免許とりに行くお金を出してくれたんだ！」と言いながら、嬉しそうにLINEで交わした父と息子の会話を教えてくれました。

息子「全部一発で受かった！ もう交付だけになりました。色々ありがとう！」

父 「お疲れ様！ 交付だけか頑張ったね！ ところで体調は大丈夫？」

息子「体調はなんとなくよくはなってるけど・全開ではないかなーって感じかな！」

父 「そっか！ 出来るだけリフレッシュしないとね！ 早く元気になってご飯食べにいきましょうね！」

それから数日後、いよいよ再会の日がやって来ました。

父からの改めての謝罪の言葉。そしてこの10年、息子が帰って来ることを信じて転居せずと待っていてくれたことを聞いたT君。そんな父に、この10年の辛さも悲しさも淋しさも、そして飲むも頑張ってきたことも自然に話すことができたのです。

7月から美容師として仕事に復帰したT君から、「ありがとうございました！」

ほんとにいるんな意味でいい経験になりました！」とスッキリした声の電話がかかってきました。「おじいちゃん！ 今度は髪切つてやるからね！」と弾けるT君に「幸多かれ」と祈りながら、これからの人生がますます素晴らしい幸福人生となることを確信しました。

父もその父母もわが身なり

我を愛せよ我を敬せよ

薪を背負いながら本を読んで歩く姿の二宮金次郎像で有名な二宮尊徳の詠んだ和歌です。少年時代に相次いで父と母を亡くし、幼い弟たちを養いながら学問と農業に打ち込み、その不遇を跳ね返して日本の農業の第一人者として多くの人々を救い導き、藩の財政をも立て直した二宮尊徳。その力の源泉は、父と母のいのちをわがいのち（身）とし、先祖（その父母も）のいのちもわがいのち（身）として愛し敬する心にあることをこの和歌は教えてくれています。

父母に愛してもらいたいのに叶わない、そんな辛い思いの子ども達にも、いつかきつと親と子の親愛の情が通い合う時が来ることを信じたい。子どもは、いつも心の奥深いところで父と母の愛を求め、愛し愛されることを求めている。

先祖を通し父と母のいのちの結晶として生まれてきた尊い尊い私たちの生命。その父母と素直に通い合う想いを感じる事ができる時、私たちは心の安心を得ることができ、自分のことを本当に大切な存在として愛し尊敬することができると信じます。